

細菌検査目的の明瞭化による費用削減効果の検討

◎高橋 尚子¹⁾、浅岡 佑介¹⁾、早川 登¹⁾、板倉 英二¹⁾
あいち小児保健医療総合センター¹⁾

[背景・目的]

検査目的の不明瞭な細菌培養検体に対して、過剰な同定・薬剤感受性検査を行っていることが検査業務・費用の増加に繋がっていると考え、改善に向けて活動を行った。この活動の効果を判定する。

[方法]

当院では、細菌検査オーダー時に検査目的の選択が必須となっている。2016年11月に、それまで19項目あった検査目的の選択肢を、「起炎菌の検索」、「スクリーニング」、「その他」の3項目に変更した。「その他」を選択する場合は、コメント欄に目的を入力するよう医師に依頼した。

変更後は、検査目的が「起炎菌の検索」の場合は感染症の原因菌と考えられる菌のみ、「スクリーニング」の場合は原則として院内感染対策上問題となる菌のみ薬剤感受性検査を行うこととした。また以上の内容を周知するため、医師向けの細菌検査マニュアルの改訂を行った。

以上の活動の効果を、2015年と2017年の細菌検査件数、薬剤感受性検査実施株数、薬剤感受性検査関連試薬の費用で比較検討した。

[結果]

2015年、2017年の細菌検査件数はそれぞれ4505件、4636件(2.9%増)であった。2017年の血液培養を除いた細菌検査のうち、検査目的が「起炎菌の検索」であったのは1927件(58.4%)、「スクリーニング」は1367件(41.4%)、「その他」は7件(0.2%)であった。

2015年、2017年の薬剤感受性検査実施株数は、それぞれ2549株、896株(64.8%減)であった。そのうち鼻腔培養からの薬剤感受性検査

実施株数はそれぞれ839件、79件(90.6%減)、咽頭培養からはそれぞれ196件、3件(98.5%減)、尿培養からはそれぞれ567件、374件(34.0%減)であった。

2015年と比較して、2017年の薬剤感受性検査関連試薬の費用は48.0%減少した。

[結論]

細菌検査の目的を明瞭にすることで、細菌検査業務・費用を削減することができた。

連絡先

あいち小児保健医療総合センター 細菌検査室
TEL : 0562-43-0500 (内線 1215)